

2021年7月10日(土) 武蔵野中学校 道徳

武蔵野学院大学教職課程担当者：佐々木隆

第1時間目「他者理解 世界はみな同じ、それとも世界はみなバラバラ？」

- 簡単な講師の自己紹介(2~5分程度)
 - 道徳を説明するとどういふものですか？
 - ・よく言われること 道徳と規則の違い
 - 事例としてアメリカと日本の比較
 - ・道徳には罰則はないが、規則には罰則が伴う。
 - ・欧米は処罰型社会、日本は許し型社会と言われてきました。西洋は罪を犯したからそれに対して罰がある。罰させられないように罪を犯さないようにするという考え方。
 - ・日本は相手に迷惑をかけないようにすることが美德であり、相手に気を遣うことが小さい時から求められ、それができなかった場合には謝り、許してもらおうという構造になっている。一定の範囲を超えると法律に基づき処罰される。
 - 建学の精神・他者理解 まず他者の存在を認め、その次に理解するように努める。他者をすぐに理解することはできません。容認するとは排除しないことが重要。
 - ・文部科学省 他者と共によりよく生きる
 - ・武蔵野学院の建学の精神と文部科学省の共通項。
 - ・次はアメリカの場合を想定していますが、さて、皆さんはどうなると思いますか？クイズ形式
 - 次も少し考えてみましょう！少しやわらかい話にしましょう！マンガ・アニメに触れる
 - ・アメリカでは『セーラームーン』は大人からも支持されていますが、『プリキュア』は支持されていません。どうしてだと思いますか？
 - ・はじめは否定された『ドラゴンボール』
 - ・『鬼滅の刃』の映画公開の条件(日本とアメリカの比較)
 - では海外では日本のマンガやアニメをどのように捉えているのでしょうか？ちょっと難しいですが、英語辞典を見てみましょう！
 - 評価の分かれるマンガ・アニメ
(今後、見直しを行い若干の変更の可能性あり)
- ★時間があれば、この時間で学んだものをコメントしてもらおう。時間経過による。

ねらい

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』(平成29年告示)

(2) 物事を広い視野から多面的・多角的に考える

グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発達や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提に

して、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる。(16頁)

1 上記を踏まえつつ、学校法人の建学の精神と文科省の道徳の考え方の根底にある「他者との共生」を異文化における道徳等の考え方の違いを日本とアメリカ等を比較することでグローバル化に対応できるよう考察を深めることができる。

2 生徒の関心を高めるため、クイズ形式を取り入れるとともに、マンガ・アニメを取り上げながら身近なものからテーマを設定することで、「道徳」を教わるのではなく、海外との比較を通して多様な価値観の存在を理解することができる

3 生徒同士の発言から、発展的な学びへ展開すること期待しながら、生徒が講師のコミュニケーションにより授業を展開させ、双方向の授業をすることができる。

第2時間目「きれいな花、美しい花にはとげがある 便利なツールは危険なツールでもある」

おもな内容 以下はパワーポイントで進行（音楽、効果音、動画が含まれる）

- 「群盲象を評す（撫でる）」

- 現在、そしてこれから避けては通れないものが2つあります。

1 グローバル化に伴い、国際語である英語に全く触れずに過ごしていくとはできないでしょう。将来の仕事でも海外製品を全く使っていない、海外とのやりとりのないものを見つける方が難しいでしょう。

2 インターネットを全く使わずに生活することも難しいでしょう。COVID-19（新型コロナウイルス）のワクチンの申し込みをインターネットが主流です。電話はなかなかつながらない、、、

- インターネットの効力が発揮された時期

- インターネット社会と道徳

インターネット上への不適切な書き込みや気になる内容のものがマスコミを始め、様々所で話題になることがあります。

- インターネットによるコミュニケーションによる不安感

- デジタル社会での表現の問題

- アメリカではこんなことが、、、

大人の男女同士のネット上のコミュニケーションでは、不倫同士が連絡を取り合っていた場合には、お互いに気を付けていても、もしそこに「❤️」「🇪🇺」「🇺🇸」ようなハートマークがあれば、離婚裁判などで不倫が確定するという事例があります。

日本ではどうでしょうか？かなり気軽に使っている人もいるのでは？誤解のもとになるかもしれませんね。

- バイトテロ

- ネットタトゥー

- デジタル万引き

- 承認欲求とFOMO

- インターネットの良い点

英語ができれば個人で世界に発信できる

インターネットは個人でアピールできる

- 後半に少し時間を取り、1・2時間目のまとめとして生徒にワークシートを記載してもらう予定。（生徒の活動）

ねらい

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成29年告示）

(1) 情報モラルに関する指導

社会の情報化が進展する中で、生徒は、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常

的に用いる環境の中に入っており、学校や生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは、学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

ア 情報モラルと道徳科の内容

情報モラルは情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度と捉えることができる。内容としては、情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワークがあるが、道徳科においては、第2に示す内容との関連を踏まえて、特に、情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に扱うことが考えられる。指導に際して具体的にどのような問題を扱うかについては各学校において検討していく必要があるが、例えば、思いやり、感謝や礼儀に関わる指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、遵法精神、公德心に関わる指導の際に、インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすることが考えられる。また、情報機器を使用する際には、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともあるため、指導上の配慮を行う必要がある。

(99頁)

1 上記を踏まえつつ、情報モラル、特に情報社会の倫理について理解を深めることができる。

2 生徒の関心を高めるため、ニュースなどで取り上げられているもの、将来直面するようリスク回避を含め、公德心について理解することができる。なお、小山一馬講師が取り上げた「いじめ」等の内容とは別に、社会全体で問題になっていることを取り上げ、生徒は視野を広げることができる。理解を深めるためにアメリカの事例なども紹介することを予定している。

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成29年告示）

(1) 自己を見つめる

道徳性の発達の出発点は、自分自身である。中学生の頃から、様々な葛藤や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。(15～16頁)

3 承認欲求とFOMOについては理解を深めることで、自己を客観的に見つめなおす機会ともなり、自己を確立してくうえでの一助とすることができる。

4 インターネットは個人で世界中に発信することができる。しかしそれにはリスクもあるため、十分な注意も必要なことが理解できる。